

# かべしんぶん

2017年7月号  
(通算44号)  
発行  
平診9条の会

6月26日に平診9条の会が開かれ、14人が参加しました。今回は、戦争体験を聞く(17回目)を服部史子師長が報告(裏面に掲載)、その後ミニ学習会を開催。「安倍首相の改憲発言を考える」をテーマに高橋司検査主任が報告。その後参加者全員が、意見や感想などを述べました。(発言の要約を記載します)

## 9条改悪は戦争する国づくりのゴール!

- 安倍首相は「国防軍」を明記して戦争する国づくりにしようとしているのは明らかだ。共謀罪を成立させたが国民の理解は進んでいないと言えない。
- 美容室に行った折に、店の方と「共謀罪は絶対だめだ」と話題になった。お店でそういう話をしたことはなく新鮮だった。共謀罪を理解している国民が13%だが、それは本当のことだと身近に感じられた。我々は国民なので願いを託す代表者を選挙で選ぶしかない。
- 内閣の支持率が30%台になった。それは内閣に疑問を持って来たことの表れだ。一時的な下落かもしれないし、これ以上に増えるかもしれない。
- 自衛隊の9条の明文化については、現在の憲法に對抗している。非常に矛盾している内容だ。
- 自衛隊を憲法では違憲と思っいて合憲として行

- 私たちが世の中はどうでもいいと思っているのか? いろいろ思っているのか? いずれにしても理屈が通らない。1項と2項をそのままにして3項を加えるということは唐突だったし十分に準備をしているとは思えない。自衛隊を英訳したら「Force」があり、それは軍隊となる。他の諸外国は敏感に反応している。3項については、深い考えなしで言ったとしか思えない。自民党内でも十分破たんする中身だろう。
- 都議選挙に合わせるよう北朝鮮でミサイルを打ったり、北朝鮮の問題にかこつけて行っている。安倍首相の中にはおごりと焦りもあるし、加計や森友問題で何をやっていいのかわからない。土曜日に同窓会がありいつも「年金」「病氣」「介護」で話が盛り上がるが、今回は政治の問題で盛り上がった。
- 戦争できる国づくりをしている。これ以上悪い方向に進むのはいやだ。
- 私たちは世の中はどうでもいいと思っているのか? 情報と共有が大切だ。
- 言葉が難しい。テレビを見ていたら安倍首相を支持する理由は「就職率」「アベノミクス」を理由にあげているが、世論調査でも支持していない人が増えてきて安心した。



ミニ学習  
「安倍首相の改憲発言を考える」  
講師：高橋司 検査主任  
\*資料の要約を掲載します。

安倍首相は、5月3日に改憲について2020年を新しい憲法が施行される年にしたい。2012年自民党改正草案には拘らない」との目標時期を明らかにした。内容は、①改正憲法の施行目標は東京オリンピック開催の2020年②戦争放棄の9条は維持し、自衛隊に関する条項を追加する。9条1項と2項を残しつつ、自衛隊を明文で書き込む③高等教育までの教育無償化も改憲の優先事項というもの。9条への自衛隊の明文化は、「同条1項、2項を残しつつ」できる話ではなく、9条2項は、『正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する』という目的を達成するため「陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない」と規定しており、この2項の条文がある限り、戦力としての自衛隊を明文化することはできないからだ。戦力ではない自衛隊など何の意味もない。安倍晋三公式サイトの記事でも明らかのように、自衛隊を「自衛軍」にしたいというのが安倍首相の真意。ならばビデオメッセージの内容は、国民を憲法論議に誘い出すためのエサではないだろうか? そもそも、憲法改正の期限を切ったことを含め、意味不明ではないか? ビデオのメッセージはイメージ先行で、年オリンピック、パラリンピックの年に日本が生まれ変わるというが、何がいけなくて、どう生まれ変わるというのか、真意が分からない。「美しい国」同じく、中味のないごまかし。高等教育を無償化するとしているが、法律を作りさえすれば可能なのであって、憲法を変える必要などない。憲法99条は、「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ」として、公人の憲法擁護義務を規定している。憲法改正に前のめりとなるのは、明らかに憲法違反である。



6月19日の戦争法・共謀罪廃止スタンディング行動

●2020年までに憲法を改正するのは現実的になりそうだとする。安倍首相のいう通りに世の中は変わってしまうのかと？

●道新で一面に大きく「共謀罪強行採決」と大きく掲載された。親に話をしたら共謀罪のことはよく知らなかった。自分は9条の会に出ているのでこういった問題は理解できる。メディアの力ってほんとうにすごいなと思う。

●北朝鮮を見ていたら、話し合いで解決するのか？世界から戦争をなくすることは難しいのではないかと？憲法が戦争を食い止める力になっていないと確信をしなければならぬが、国民の中では例えば災害派遣などで「自衛隊」はないとだめだと。そこを憲法に書き込もうとしているのは「巧み」なやり方だと思ふ。北朝鮮はどんどんやってくれと、自衛隊を改正憲法で書き込み憲法の精神で自衛隊を巻き込むという「巧みさ」があるなど。臨時国会も開かなければならぬのに加計問題など絶対に真実を隠し続ける。戦争のことは60歳以上の方は危機感を本当に持っている。声を上げ続けることで絶対に追い詰めることができるし、やらなければならぬ

今年も原水禁世界大会に平診より代表を派遣します。募金、ヒバクシャ国際署名千羽鶴をよろしく願います。



硯 美穂さん (看護師)

原水爆禁止2017長崎世界大会へ参加することになりました。社会に出て、色々な戦争体験を聞く機会が私にはありました。中でも、ラバウル航空隊最後の生存者の方々の話を聞いた時は言葉になりませんでした。その方も数年前に亡くなり、毎年行っていた沖繩ひめゆりの塔の体験者の講話も無くなってしまいました。戦争はダメです。何かを得るには国だけです。人は心も身体も傷つくだけです。

# 戦争体験を聞く 17



昭和19年、23歳のとき、支那事変から帰ってきた28歳の人と見合い結婚したが、翌20年3月大東亜戦争に駆り出されることになった。赤紙を手にしたときは、覚悟していたもののびっくりして全身が震えた。夫は札幌連隊に所属し、千葉の木更津へ向かった。

自分は常盤で田んぼの手伝いをしていた。5月か6月、曇り空の上を大きな音をとどろかせて飛行機が飛んで行った。あとで旭川や富良野に艦砲射撃があったと聞いて、「曇り空でなければ見つかって殺られていた」と身震いしたのを覚えている。終戦を迎え9月に夫は帰ってきたが、夫の兄二人は戦死した。それぞれに幼い子どもが3人いたので、奥さんの悲しみや苦労を思うと「うちの夫が帰ってきた！」と素直に喜ぶことはできなかった。

昭和26年頃まではとにかく物がなかった。戦後子供に恵まれたが、オムツがなく高いお金で木綿をようやくと手に入れ、何とか6、7枚のオムツを縫うことができてほっとしたことを覚えている。鍋はドロ鍋といって、ぶつけたらすぐ割れるような粗末なもので、次に出たジュラルミン鍋は体に害があるとかでやがて無くなった。お玉代わりに割りばしの先にホタテの貝殻をくっつけたものが売られていたが、味噌汁をすくってもすぐにこぼれてしまうようなものだった。農家の手伝いをしていたので最低限の米、野菜は手に入ったが、遠い親戚に米を譲ってほしいと言われても断らなければならず辛かった。醤油や油はなかなか手に入らず、砂糖が配給になるときは喜んで並んだものの、3人前で終わってしまい子供に甘いものを食べさせることができず悲しかった。戦争は二度としてほしくない。夫から話を聞いたこともあるけど、恐ろしくてとても口に出せるものではない。やらなきゃ殺されるなんて・・・戦争は絶対ダメ。



ホタテのお玉

【感想】「曇り空でなければ見つかった」とこの話を聞き、むかし国語の教科書に載っていた『夏の葬列』という小説(シヨートシヨート)を思い出しました。結末を忘れてしまっていたのでネットで再読しました。当時は戦争の悲惨さを伝える教材が多かったような気がしますが今はどうなのでしょう。5分で読めます。興味のある方はどうぞ。

次回は、7月24日(月)午後5時15分より平診リハビリ室にて、原水禁世界大会派遣壮行会を兼ねて開催します。参加をお待ちしています。

95歳のS・Hさんから服部史子看護師長が聞き取りを行いました